

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

〈小学校第6学年 市内16校 866人〉 〈中学校第3学年 市内8校 817人〉

(3) 調査内容

①教科に関する調査

・小学校【国語・算数】 中学校【国語・数学・英語（今年度、新たに追加）】

※英語については「聞くこと、読むこと、書くこと」の結果のみ公表

②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(4) 実施日 平成31年4月18日（木）

【今年度調査の特徴】

※新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度より従来のA問題（知識・技能等）とB問題（活用等）という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更

※英語（中学校）を初めて実施

※理科（小中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず

学力調査結果

平均正答率(%)

	富田林市	大阪府	全国
国語	60	60	63.8
算数	66	66	66.6

	富田林市	大阪府	全国
国語	71	70	72.8
数学	60	58	59.8
英語	56	56	56.0

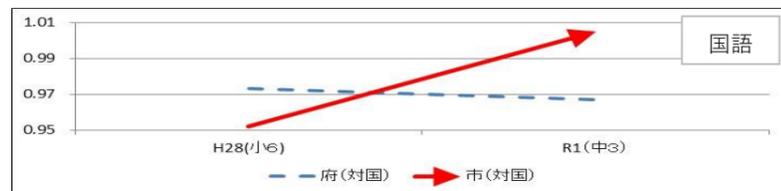
無解答率(%)

	富田林市	大阪府	全国
国語	6.9	7.0	6.2
算数	2.9	2.8	2.7

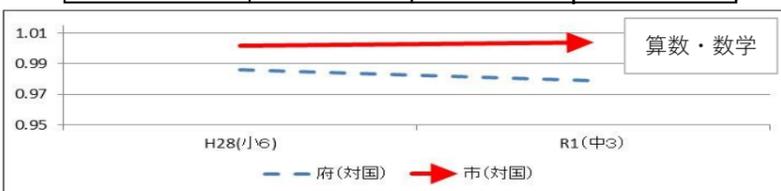
	富田林市	大阪府	全国
国語	2.3	3.3	2.6
数学	5.4	8.7	7.3
英語	4.9	6.6	6.0

小6から中3にかけて

下のグラフは、本年度の中学校3年生について、平成28年度に小学校6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果と、本年度の調査結果を比較し、富田林市の平均正答率と全国公立の平均正答率との差がどのように変化したかを表したものです。 ※H28（小6）の数値はA問題とB問題の平均値



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●H28	61.9	63.4	65.4
◆R1	71	70	72.8



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●H28	62.6	61.4	62.4
◆R1	60	58	59.8

各教科の状況

○・・・全国平均を顕著に上回った内容

△・・・全国平均を顕著に下回った内容

※〔 〕内は問題番号

小学校国語・・・全ての領域で全国を下回る。

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。〔1四（1）イ〕

△話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。〔3三〕

→目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出す活動に取り組む。その際、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の意見と比べながら聞いたりすることが重要である。

小学校算数・・・数と計算、数量関係は全国と同等。量と測定、図形は全国を下回る。

○加法と乗法の混合した整数と小数の計算。〔2（4）〕

△図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する。〔1（2）〕

→図形の学習では、図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動をととして、実質的な理解を深める。その際、図形の構成の仕方や、計量の仕方について、筋道を立てて考察し、表現することが重要である。

中学校国語・・・全ての領域で全国を下回る。

○意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。〔3一〕

△文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。〔1一〕

→新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読み取る活動に取り組む。その際、文章の内容や構成を理解して必要な情報を取り出したり、多様な情報に触れる中で自分の興味のある話題に出会い、既有的知識や経験と結びつけて自分の考えを広げることが重要である。

中学校数学・・・関数、資料の活用は全国を上回る。数と式は全国と同等。図形は全国を下回る。

○反比例の表から、xとyの関係を式に表す。〔4〕

△四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する。〔7（3）〕

→図形の性質を考察する場面では、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理する活動に取り組む。その際、証明を振り返って、統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことが重要である。

中学校英語・・・書くことは全国を上回る。聞くこと、読むことは全国を下回る。

○与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く。〔9（3）①〕

△日常的話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る。〔5（2）〕

→英語を読んで情報の詳細を理解するために、語や文法事項等の知識を活用する活動に取り組む。その際、動詞や前置詞などといった読み取りのキーワードとなる語句を正しく理解することが重要である。

※〔 〕内の数値は全国平均

小学校 国語	領域	富田林市	平均正答率(%)
	話すこと・聞くこと	67.6	(72.3)
	書くこと	50.9	(54.5)
	読むこと	78.3	(81.7)
言語等の知識や理解	50.1	(53.5)	

小学校 算数	領域	富田林市	平均正答率(%)
	数と計算	63.1	(63.2)
	量と測定	51.8	(52.9)
	図形	73.7	(76.7)
数量関係	68.2	(68.3)	

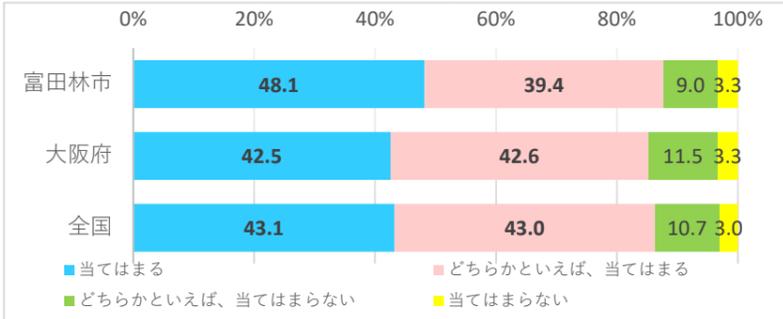
中学校 国語	領域	富田林市	平均正答率(%)
	話すこと・聞くこと	69.4	(70.2)
	書くこと	81.9	(82.6)
	読むこと	69.6	(72.2)
言語等の知識や理解	66.2	(67.7)	

中学校 数学	領域	富田林市	平均正答率(%)
	数と式	63.7	(63.8)
	図形	70.4	(72.4)
	関数	42.4	(40.8)
資料の活用	57.1	(56.3)	

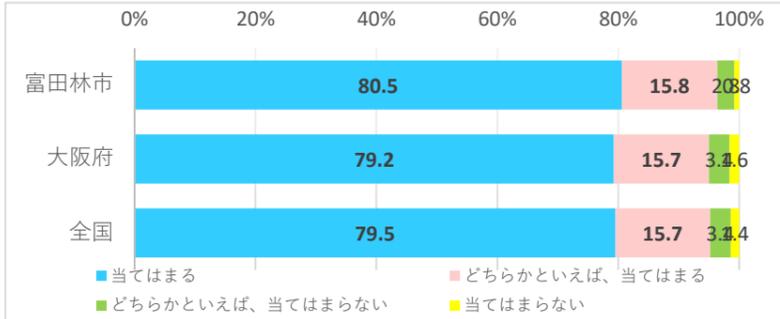
中学校 英語	領域	富田林市	平均正答率(%)
	聞くこと	67.1	(67.9)
	話すこと（参考値）		
	読むこと	53.5	(55.6)
書くこと	47.3	(45.8)	

児童生徒質問紙

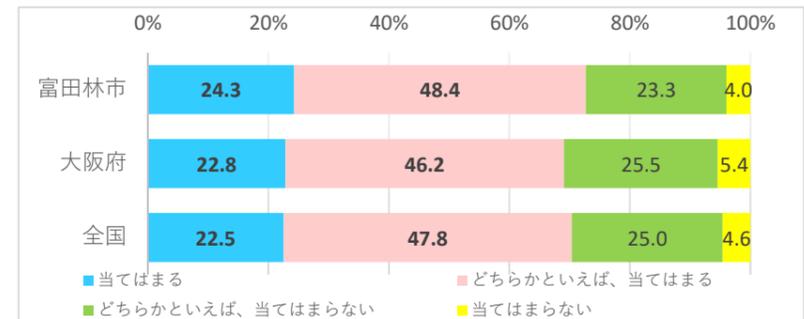
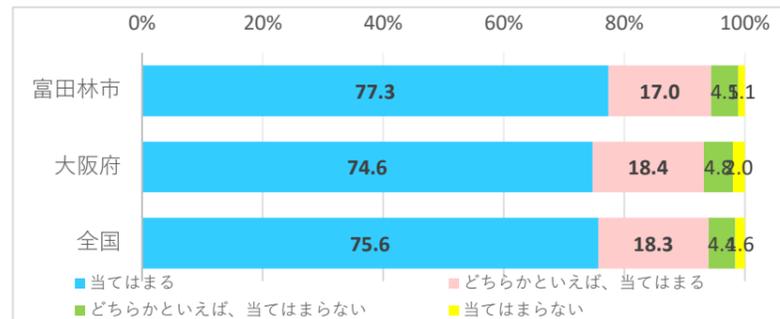
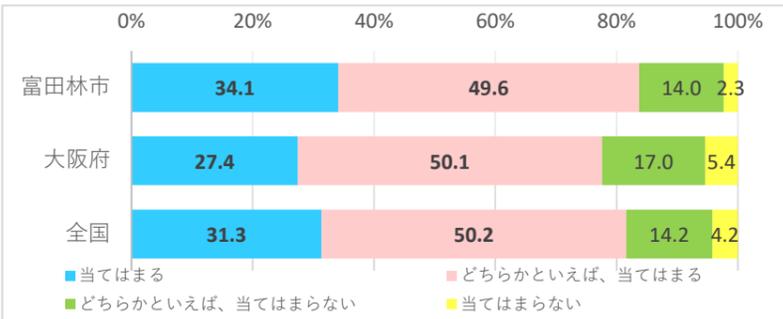
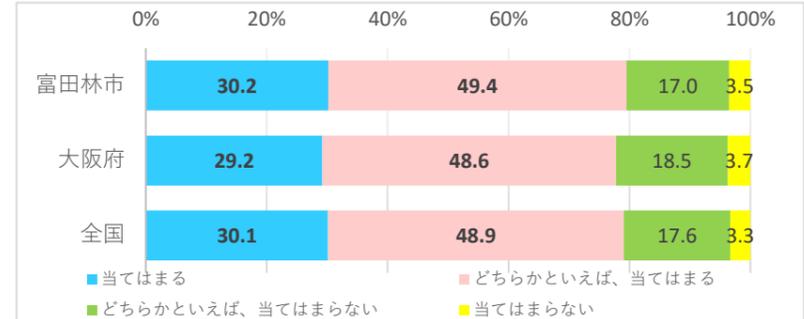
○先生は、よいところを認めてくれている



○ものごとを最後までやり遂げる



○失敗を恐れず挑戦する



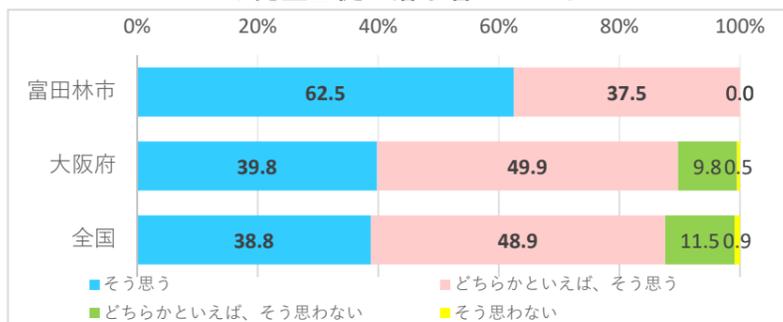
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

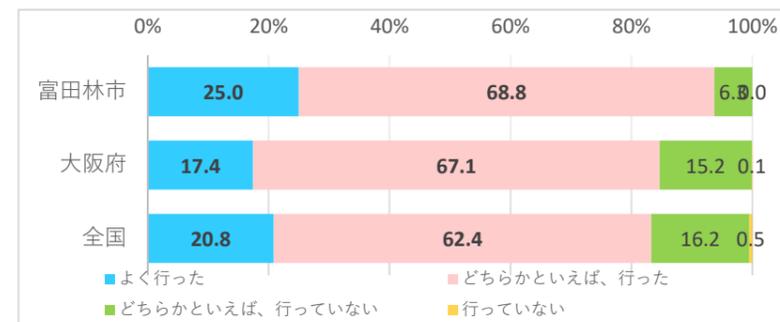
・「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

学校質問紙

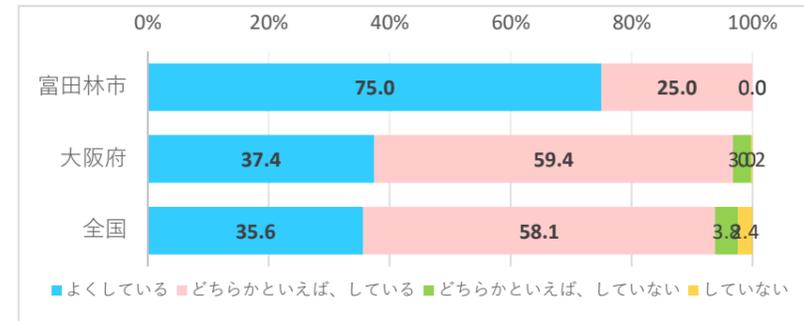
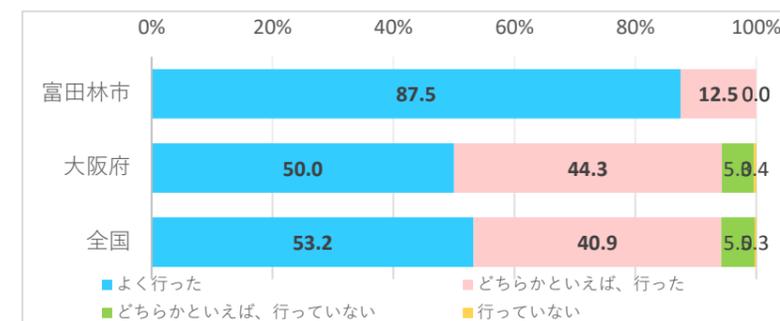
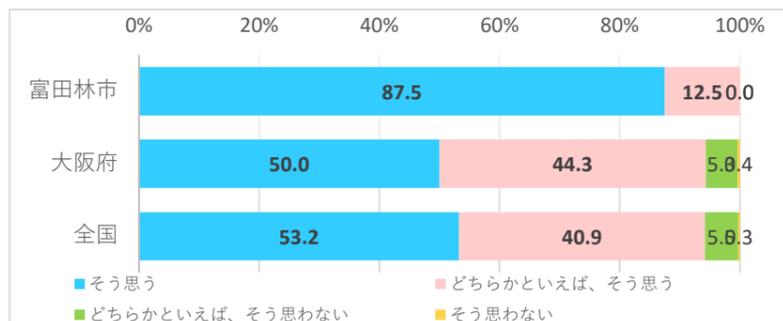
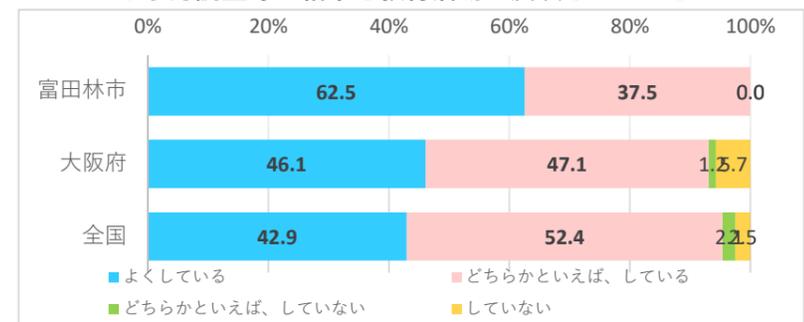
○児童生徒は落ち着いている



○将来の仕事や夢について考えさせる指導をしている



○学力調査等の結果を教育活動に反映させている



・授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答する学校が全国より多く、特に強い肯定的な回答が全国を大きく上回る。

・将来の仕事や夢について考えさせる指導をしていると回答する学校が全国より多く、特に中学校で強い肯定的な回答が多い。

・学力調査結果を教育活動に反映させていると回答する学校が全国より多く、小中学校とも否定的な回答が見られない。